

平成29年度各会計決算

市長説明

前橋市



平成29年度各会計決算について、その大要をご説明申し上げます。

平成29年度は、「市民の英知とともに、未来の芽を育み、<sup>つたえ</sup>発信よう」という行政経営方針に基づき、「暮らしの質感の向上」、「稼ぐ力の創出」、「官民連携」の三つを重点施策として定め、各種の事業を推進しました。

また、計画期間の最終年度となる「第六次前橋市総合計画」や、「県都まえばし創生プラン」に位置づけた地方創生の取組みについても、限られた財源を有効に活用しながら、将来を見据え、それぞれ着実に進めることができました。

その結果、平成29年度一般会計決算額は、歳入総額が1,430億5,347万円、歳出総額が1,401億7,688万円となりました。

歳入歳出差引額は28億7,659万円で、

平成30年度への繰越財源を差し引いた実質収支は、24億8,896万円の黒字となり、このうち13億円を、地方財政法の規定に基づく決算剰余金処分として、財政調整基金へ積み立てました。

続いて、歳入の主な内容について、ご説明申し上げます。

はじめに、市税収入は、個人市民税が給与所得の伸び等により、前年度と比べ約7千万円の増額となり、法人市民税も、緩やかな景気回復を背景に企業の業績が改善されたことにより、約1億5千万円の増額となりました。

また、固定資産税は、新增築家屋分の増加等により、前年度と比べ約2億9千万円の増額となり、市税全体では約6億円増の530億3千万円となりました。

次に、譲与税や交付金関係では、地方交付税が、市町村合併の特例期間の段階的終了の影響等により、

約9億円の大幅な減額となりましたが、地方消費税交付金は、課税対象取引の増加等により、約3億5千万円の増額となりました。

国庫支出金は、六供清掃工場の延命化工事に伴う二酸化炭素排出抑制対策事業交付金の増加等により、約5億円の増額となり、県支出金は、農業関係の産地パワーアップ事業補助金や畜産競争力強化対策整備事業補助金の増加等により、約9億6千万円の増額となりました。

財産収入は、土地売払収入の増加等により約5億7千万円の増額となりました。

繰入金金は、財政調整基金の取崩しが前年度を下回ったこと等により約19億8千万円の減額となりました。

市債は、六供清掃工場施設整備事業債や中学校校舎等改築事業債等が増加となりましたが、市民文化会館改修事業債や消防施設整備事業債等が減少したことにより、前年度とほぼ同額の約158億8千万円となり、

平成29年度末における一般会計の市債残高は約1,554億8千万円、このうち臨時財政対策債を除く通常債の残高は、前年度末に比べ約4億5千万円増の939億円余りとなりました。

以上が歳入の主な内容であります。

次に、歳出の主な事業の実施状況について、第六次総合計画の主要6分野ごとにご説明いたします。

## 1 「快適で暮らしやすいまちづくり」

住環境の整備では、市営住宅の建替えや既設市営住宅へのエレベーター設置工事を実施するとともに、空き家の活用促進として、リフォームや二世帯近居・同居のための住宅改修費等を引き続き補助しました。

また、コンパクトなまちづくりを目指す「立地適正化計画」における都市機能誘導区域を公表するとともに、居住誘導区域の指定に向けて取り組んだほか、土地区画整理事業では、市内12地区における事業を推

進しました。

道路整備では、新市建設計画や新市基本計画に位置付けられた幹線道路の整備や、舗装長寿命化修繕計画に基づく主要幹線道路の舗装補修を実施しました。

橋りょう維持では、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、点検や補修工事を引き続き実施しました。

公共交通の整備では、高齢者等の移動手段としてマイタク制度を継続実施したほか、本市の公共交通ネットワークの再構築に向けて「地域公共交通網形成計画」を策定しました。

防災体制の推進では、群馬県の浸水想定区域見直しに伴い、総合防災マップの全面改訂を行い、市民への周知を図りました。

また、災害対応力の強化を図るため、南消防署城南分署の移転新築工事に着手しました。

水道事業では、水道水の安全・安定給水と管路の耐震性向上を図るため、ろうきゅうちゅうてつかん老朽鑄鉄管について耐震管への

更新を計画的に進めるとともに、敷島浄水場の新配水塔の建設に向けて、詳細設計に着手しました。

下水道事業では、下水道管渠の耐震化工事を計画的に進めたほか、下水道施設全体の老朽化対策として、ストックマネジメント計画の策定に向け基礎調査を実施しました。

## 2 「恵み豊かな自然と共生するまちづくり」

循環型社会の形成では、ごみ出しルールや分別方法を効果的に市民に周知する手段として「資源・ごみ分別アプリシステム」を導入し、ごみの減量や正しい取扱いの啓発に取り組みました。

また、新エネルギーの導入として、赤城大沼用水の小水力発電施設の整備工事を引き続き実施しました。

清掃施設の整備では、平成31年度までを計画期間とする六供清掃工場の延命化工事を引き続き実施したほか、新たな最終処分場の建設に向けて、整備方針を



策定するとともに、基本構想の策定に着手しました。

緑豊かなまちづくりでは、総合運動公園の拡張工事や荻窪公園の県道南ゾーンの造成工事を引き続き実施するとともに、広瀬川河畔を人々の新たな交流空間とするため、河畔緑地に丘を整備し、寄附していただいた岡本太郎氏の作品「太陽の鐘」を設置しました。

また、「全国さくらサミット in 前橋」を開催し、市内外に前橋の桜をPRするとともに、桜を通じた人々の交流を生むことができました。

### 3 「個々が光り輝くまちづくり」

健康増進の取組では、がん検診をはじめとする各種健康診査の受診勧奨に引き続き取り組むとともに、ロタウイルス予防接種費用に対する支援を充実しました。

また、心の健康づくりをさらに推進するため、自殺対策推進計画を策定するとともに、健全な食生活を通じて健康寿命の延伸を図るため、第3次食育推進計画

を策定しました。

医療施設等の整備では、本年6月に開院した、前橋赤十字病院の移転新築に対して補助しました。

また、救命率の更なる向上を目指し、市有施設のほか、新たにコンビニエンスストアへのAED設置を行いました。

児童福祉では、保育所や認定こども園等の障害児保育に必要な職員の配置に対して支援を行ったほか、児童養護施設等の退所者の住居契約費等に対する助成を継続実施し、経済的な負担の軽減と自立支援を図りました。

母子保健では、出産後の母親支援として育児や家事を行う産後ヘルパー事業に新たに取り組んだほか、新生児の健康対策として、聴覚検査費用の支援を行いました。

高齢者福祉では、最終年度となる第6期スマイルプランに基づき、特別養護老人ホームや地域密着型サー

ビス施設の整備を支援しました。

また、高齢者が地域において健康でいきいきとした生活が送れるよう、総合事業を推進し、介護予防に向けた地域活動の支援と多様なサービスの提供に取り組みました。

障害者福祉では、手話施策推進方針に基づく市民向けの手話教室の開催や、手話奉仕員の養成を通じて、手話の普及啓発に取り組むとともに、障害福祉関係施設の整備に対し助成を行いました。

生活困窮者の自立支援では、新たに「まえばしフードバンク事業」を開始し、食品関連企業等から寄付された食品を配付したほか、生活保護世帯や生活困窮世帯の中学生を対象とした学習支援を継続実施しました。

このほか、誰もが住み慣れた場所で、生きがいを持って生涯活躍できるまちの実現を目指す、前橋版CCRC事業では、日赤跡地における生涯活躍のまち事業の優先交渉権者を決定しました。

#### 4 「地域資源を活かした活力あるまちづくり」

産業振興では、小口資金融資保証料の全額補助を継続実施し、中小企業を資金面から支援するとともに、企業が行う新製品や新技術の開発に対する支援を充実しました。

また、起業家支援では、拠点施設である前橋市創業センターの利用促進を図り、創業支援の充実に取り組みました。

雇用対策では、総合的若者・子育て女性就職支援施設「ジョブセンターまえばし」を開設し、ハローワークの就職紹介事業との一体的な就職支援に取り組みました。

企業誘致では、五代南部工業団地の拡張用地の造成と分譲を行うとともに、新たな産業団地の開発に向けた取組みを推進しました。

中心市街地のにぎわい創出では、空き店舗や空きオフィスへの出店等に対する支援を継続実施したほか、

前橋市まちづくり公社や民間団体、商店街との連携により、活気あるまちなかを創り出すイベント活動に対し支援を行いました。

農業振興では、6次産業化の更なる推進のため、施設の整備や商品開発等に対する支援を継続するとともに、農産物直売所の販売力強化のための施設整備や経営相談等に対する支援を行いました。

また、前橋産農畜産物の県内外における販売促進や海外販路の拡大を引き続き推進しました。

このほか、ほ場整備では、上細井中西部地区の土地改良事業について、事業主体の群馬県が行う測量や設計等に対し負担金を支出しました。

観光振興では、赤城山の魅力を伝えるため、地域観光の担い手となる法人組織である、DMO（赤城自然塾）の活動を支援しました。

また、赤城周辺地域の食や農産物、歴史文化や自然環境を大切にしたい暮らしを目指すため、30か国が加

盟するスローシティ国際連盟に日本で2番目に加盟しました。

このほか、東京オリンピックを控え、インバウンド観光を推進するための海外メディアを活用したPR活動を展開するとともに、新たにホテル等の宿泊施設が行う一定の施設整備に対する支援を開始しました。

新たな「道の駅」の整備では、計画策定から運営までを担う事業予定者を公募し、優先交渉権者を決定しました。

## 5 「豊かな心を育むまちづくり」

社会教育施設の整備では、南橋公民館本館の耐震化のための改築に向けた実施設計を行いました。

学校教育では、特別支援学級介助員やほっとルームティーチャーを増員するとともに、新たに学習サポーターを配置し、通常学級において特別な支援を必要とする児童生徒の学習支援を行いました。

また、小学校の教科指導講師や中学校の校務補助員を増員し、学習指導の充実と教職員の多忙きの解消、さらには教員が児童生徒と向き合う時間の確保に努めました。

このほか、小学校の30人学級化に向けた段階的な取組として、単学級の35人学級化の継続に必要な教職員を配置するとともに、中学生を対象とした地域寺子屋事業では、実施地区を拡充し、地域のボランティアの協力を得ながら、生徒主体の学習活動を推進しました。

小・中学校の施設整備では、コミュニティセンターや放課後児童クラブ、消防団詰所を併設した桃井小学校の校舎等改築が終了し、平成30年4月に移転開校したほか、第一中学校の校舎改築等を実施しました。

前橋工科大学では、老朽化した実験棟の改築を行うとともに、新たな実験機器の購入を行い、教育研究環境の向上を図りました。

スポーツ振興では、赤城山ヒルクライム大会や、市街地での自転車周回レースであるまえばしクリテリウムなどのスポーツイベントを通じて本市をPRするとともに、スポーツコミッション事業として、全国大会の本市開催支援や東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致、ハンガリーを相手国としたホストタウン事業等に取り組みました。

文化財の保護と活用では、3か年にわたる臨江閣の改修工事が完了し、リニューアル開館記念事業として将棋の竜王戦等を開催するとともに、ライトアップによるPRを行うなど、文化財としての活用にとどまらず、シティプロモーションとしても大いに活用を図りました。

文化振興では、市民参加によるミュージカルを上演したほか、歴史文化遺産の活用と発信を目的としたイベントとして「前橋藩主・松平大和守家やまどのかみけ顕彰祭」や「前橋四公祭」等を開催しました。



また、前橋文学館では、本市が誇る詩人・萩原朔太郎に関する企画展を実施するとともに、貴重な資料を保管するための収蔵庫の増築工事に着手しました。

アーツ前橋では、言葉とアートをテーマに、まちなかの回遊性を高める企画展を文学館と共同実施するなど、多様な企画展やイベントを開催し、市民に身近な芸術文化活動を推進しました。

## 6 「市民協働のまちづくり」

市民協働・地域づくりでは、新たに「地域おこし協力隊」を委嘱し、地域活動の支援を行うとともに、移住コンシェルジュと連携し、移住・定住促進にも取り組みました。

行財政運営では、平成28年度から30年度までの行財政改革推進計画に基づき、事務事業の見直しや民間活力の導入に努め、効率的な行政運営に取り組むとともに、ファシリティマネジメントの推進として、市

有施設の長寿命化や保有総量の縮減、効率的な利活用に向けて、施設の予防保全や事後保全等の取組みを進めました。

情報化の推進では、マイナンバーカードの普及と地域経済の活性化のため、クレジットカードのポイント等を自治体ポイントとして前橋の特産物等と交換できる「前橋ポイント制度」を開始しました。

このほか、平成30年度からの本市のまちづくりの指針となる、「第七次前橋市総合計画」を策定しました。

以上が平成29年度に取り組んだ主な施策でございます。

最後に、決算に基づく財務指標については、財政構造の弾力性を示す経常収支比率、財源の豊かさを示す財政力指数ともに、昨年度より改善したことから、今後も引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

本市を取り巻く状況は、少子高齢化と人口減少が着実に進むと見込まれる中、歳出面では、医療・介護などの社会保障費や老朽化した市有施設の維持管理費に加え、大型の建設事業費の増加が見込まれております。

一方、歳入面では、税収は上向いているものの、合併特例期間の終了による地方交付税の段階的な減額が続いていることから、歳入全体では減少傾向が続くものと見込まれ、なおかつ財政調整基金の残高が減少していることから、今後も、厳しい財政状況が続くものと思われれます。

そうした状況ではありますが、平成30年度からの第七次総合計画を着実に推進するため、事務事業の更なる見直しを進めるとともに、職員の創意と工夫をもって事業実施に取り組んでまいります。

そして、市政の情報を広く発信するとともに、市民の皆さんの意見に耳を傾けながら、前橋のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

以上で平成29年度各会計決算の大要の説明を  
終わります。

